

チャレンジの中にこそ、 新たな価値の創造が

足立区の「今」と、令和14年度に迎える区制100周年をつなぐ新たな「足立区基本計画」を策定しました。策定の過程で貴重なご意見をお寄せくださいなど、策定にご協力いただいた全ての区民や関係者の皆さんに、心より感謝申し上げます。

今回の計画では、区が抱える課題に向き合いながらも、未来の可能性を広げていくことを目指しています。4つのボトルネック的課題である「治安」「学力」「健康」「貧困の連鎖」をはじめ、少子・超高齢社会の進行、気候変動への対応、多様化する価値観や生活様式、そしてテクノロジーの急速な発展など、区が直面する課題は多岐にわたります。しかし、これらの課題の克服にチャレンジする中にこそ、区の魅力をさらに高める新たな価値を創造するチャンスがあると確信しています。

そのチャンスを掴み、足立区が進化し続けるための原動力として、区民の皆さん一人ひとりの「やりたいことが叶うまち」をテーマに掲げました。

令和5年度に立ち上げた「あやセンター ぐるぐる」では、設立から1年足らずで区民の皆さんの「やりたいこと」を100件以上実現するなど、新たな「活力」が生まれていますが、その中心はこれまで区との接点の少なかった方々です。今後の区の発展には、こうした新たな力の広がりが欠かせません。

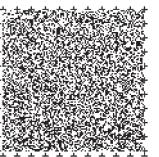
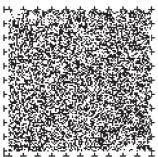
皆さまの「安心」をさらに高め、やりたいことが叶う中で新たな「活力」が生まれていく。この相乗効果によって、個人にとどまらず、社会的にも満たされた状態である「ウェルビーイング」を広げていくことも本計画の重要な理念です。

しかし、どの様に崇高な理念でも、掲げるだけでは画餅に帰すことになります。計画に定める各成果指標により計画の進捗を管理することはもちろん、計画策定後も区民の皆さまの声を丁寧に伺い、困りごとやニーズを正確に把握することも肝要です。特に、今回は、小・中学生からも「まちの将来像」などについてたくさんの意見をいただきました。一つひとつのお声を真摯に受け止め、目指す未来を共に創っていく仕組みづくりにも注力してまいります。

足立区には、支え合い、挑戦し、進化し続ける力があります。次世代が誇れる足立区の実現に向けて、これからも変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。

令和7年2月
足立区長 近藤やよい

この冊子には音声コード「Uni-Voice（ユニボイス）」が左ページの左下、右ページの右下に印刷されています。スマートフォンなどの専用アプリで読み取ると、音声で内容を確認できます。



変わりゆくまち、進化するあだち。

変化

人々の中にも
新たなうねりが生まれる。

歴史と伝統が息づく場所でありながら、近年では新しい住民や若い世代の流入により、多様な人々が行き交い、色とりどりのコミュニティが生まれる場所。

伝統や文化などを大切にしつつも、新しい価値観やライフスタイルを積極的に取り入れ、誰もが自分らしくいられる「足立区ならでは」の空間が育つつあります。

そこでは、人々の様々な想いや活動が混ざり合い、新たなうねりが生まれ始めています。



平成24年4月に開設された東京電機大学 東京千住キャンパス。



様々な文化が混ざり、
新たなつながりが生まれている。

多様性・
融合

100年に一度の
変化のときが訪れる。

まちの特徴・魅力や求めるべき将来像などを区内外に広く発信し、足立区のイメージアップや、地域活性化を図る新しいまちづくりの手法「エリアデザイン」。

今、足立区は、この「エリアデザイン」によって、100年に一度の大きな変化のときを迎えています。

大学が開設した千住・花畠エリア、大学病院を核とした「健康」がテーマの江北エリアなど、地域の個性や魅力を引き出す都市空間づくりが進んでいます。

近年、足立区は大きな変化を遂げています。再開発によって新しい商業施設やマンションの建設が進み、風景が徐々に変わりつつあります。

それでもなお、古き良き面影が残り、歴史や伝統を感じることができる場所が存在します。地域の伝統や文化と新しい活力が混ざり合う、そんな今の足立区にふさわしい、新しい「足立区基本計画」が出来上りました。

ひとの魅力と想いが
あだちのまちを彩る。

まちは単なる生活の場にとどまらず、一人ひとりの想いや夢を実現するための舞台へと進化しています。

そこでの活躍は、夢の実現のためだったり、人々の笑顔のためだったり、社会のためだったり。自分らしさへの一歩は、自分の興味や関心=「やりたいこと」から始まります。

今、多くの人の「やりたいこと」が足立区を鮮やかに色づけています。

想い

やりたいが
叶う



「やりたい」の拠点「あやセンター ぐるぐる」と「アヤセ未来会議」メンバー。



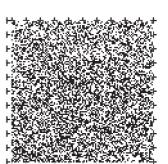
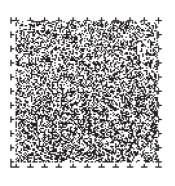
モノづくりの現場でも個性豊かな人々が活躍している。

今、やりたいことが
叶うまちへ。

多様な人々の想い——これは、まちを発展させ、魅力を創り出す原動力。

まちは、単なる建物や道路だけで形成されるものではなく、そこに住む人々の願いや情熱、努力が重なり合って、初めて真に生き生きとした場所となっていきます。

区制100周年までのロードマップを描く「足立区基本計画」は、「やりたいこと」にチャレンジし、成長していく区民一人ひとりの姿を想像しながら策定しました。足立区は、「やりたいことが叶うまち」の実現に向け、今、走り始めました。



目 次

第1部では、計画策定の前提となる「足立区基本構想」や計画の位置付けなどについて記載しています。

第2部では、区の現状や社会情勢の変化など、計画策定にあたり考慮すべき背景について記載しています。

第3部の第1章から第7章に掲げる7つの理念は、区のあらゆる施策に共通し、かつ、あらゆる施策を通じて推し進める基本的な理念です。第6部に記載する各施策を進める際には、これらの理念を十分に踏まえた上で実施していきます。

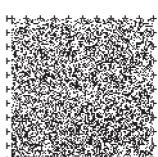
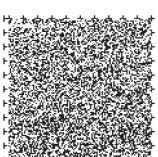
第4部では、重点的に取り組むプロジェクトを定める「重点プロジェクト」やPDCAマネジメントサイクルを確立させるための「行政評価制度」、分野横断的な視点をもたらす「SDGs」について記載しています。

第1部 計画の策定にあたって	1
第1章 策定の趣旨	3
第2章 計画の期間	4
第3章 足立区の基本構想	5
第4章 計画の位置付け	7
第5章 前計画の取組の評価	9
第2部 策定の背景	11
第1章 足立区ってこんなところ	13
第2章 日本の社会状況の変化	29
第3章 財政収支の見通し	45
第4章 公共施設の老朽化	47
第3部 基本計画の理念	49
第1章 協創の再構築	51
第2章 やりたいことが叶う	55
第3章 ウェルビーイングの向上とSDGsの推進	59
第4章 人権・多様性の尊重と地域共生社会の実現	63
第5章 子ども・若者と進めるまちづくり	65
第6章 地域特性・地域資源を踏まえた施策の展開	67
第7章 持続可能な区政運営の推進	68
第4部 計画推進の仕組み	71
第1章 重点プロジェクト	73
第2章 行政評価制度	75
第3章 基本計画を通じたSDGsの推進	77
第5部 戰略的な施策体系	79
第1章 将来像の実現に向けた4つの視点	81
第2章 基本計画における7つの柱立て	82
第3章 施策体系	83

第6部では、第5部に記載した施策体系に基づき、各施策の取組などについて記載しています。

第6部 各施策の内容	87
第6部 施策ページの見方	89
施策群① 家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む	91
施策群② 妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える	103
施策群③ 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動を実践できる仕組みをつくる	111
施策群④ 人権と多様な個性を認め合う社会を実現する	119
施策群⑤ 区民の命や財産を守り、くらしの安全を確保する	129
施策群⑥ 環境負荷が少ないくらしを実現する	141
施策群⑦ 地域でつながり、支え合う地域共生社会を実現する	147
施策群⑧ 高齢者、障がい者などの生活のサポート体制を充実する	153
施策群⑨ 健康寿命の延伸を実現する	163
施策群⑩ 災害に強いまちをつくる	171
施策群⑪ 便利で快適な道路・交通網をつくる	179
施策群⑫ 地域の特性を活かしたまちづくりを進める	185
施策群⑬ 地域経済の活性化を進める	195
施策群⑭ 戰略的かつ効果的な行財政運営を行う	201
施策群⑮ 区のイメージを高め、選ばれるまちになる	213
資料編	219
1 各施策とSDGs 17のゴールとの関係	221
2 分野別計画等一覧	225
3 策定体制	230
4 足立区基本計画審議会	231
5 基本計画ライブミーティング	233
6 子どもの意見聴取（きかせて！みんなのいけん）	235

足立区地域ビジョン・総合戦略	241
足立区国土強靭化地域計画	245

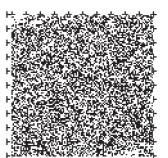
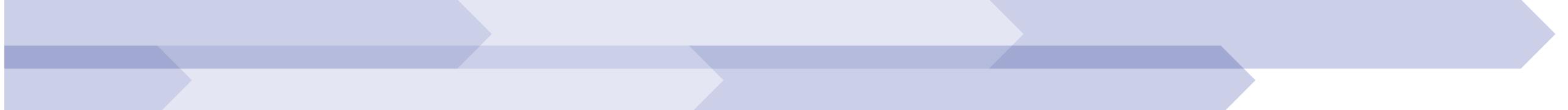
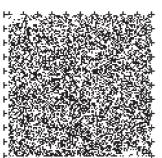


第1部

計画の策定にあたって

第1部では、計画策定の前提となる

「足立区基本構想」や計画の位置付けなどについて記載しています。



第1章 策定の趣旨

区の人口は、直近20年間で約49,000人増加し、令和6年1月1日現在、693,223人となりました。しかし、令和19年には人口減少に転じていくことが予測され、これまでのような人口増加は見込めない状況に直面していきます。また、平成6年には特別区中22位(10.89%)であった高齢化率(区内総人口に占める65歳以上人口の割合)は、令和2年には特別区中1位(24.79%)となるとともに、外国籍の住民比率も上昇を続けており、人口構造に大きな変化が起きています。

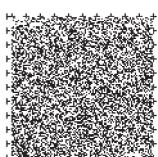
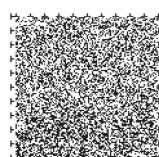
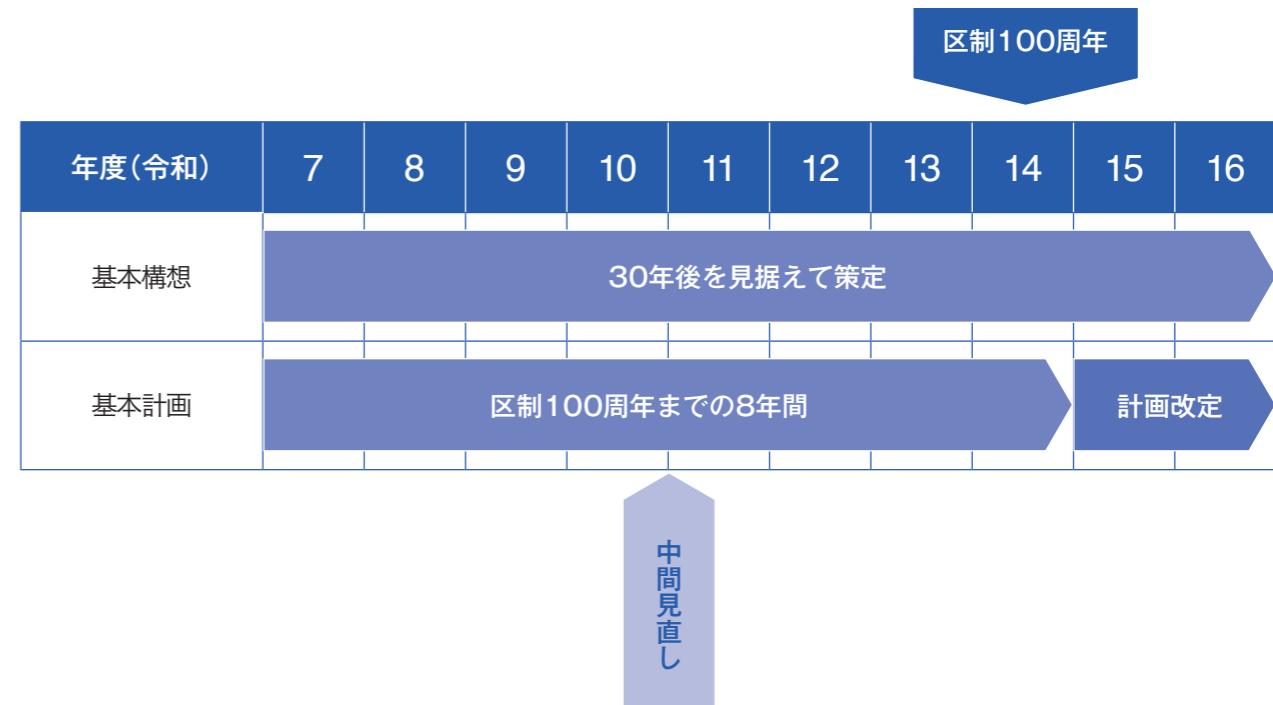
前計画の期間中には、新型コロナウイルス感染症により、日常生活が一変する困難を経験し、また、頻発する大規模な台風などの自然災害や近年の物価高騰、首都直下型地震への不安は区民生活を脅かしています。加えて、所得格差の拡大や地域コミュニティの希薄化、地域社会と関わりを持たない壮年期単身者の増加によって、その社会的孤立と地域コミュニティの崩壊が懸念されています。さらに、社会インフラの老朽化による財政負担の増加など、現在から将来にわたって区を取り巻く状況は厳しさを増しています。

このような状況の中、持続可能な未来を見据えていくには、現状と課題を踏まえた効果的な政策を推進することに加え、多様な主体と共に区の魅力や個性を高めることで、区内外を問わず人々をまちへ惹きつけ、行政と地域が共に課題を乗り越えていくことが必要です。

社会情勢等の変化を踏まえ、足立区基本構想(以下「基本構想」という。)に掲げる将来像の実現に向けた取組を総合的かつ計画的に推進するべく、令和7年度を計画の初年度として、区制100周年にあたる令和14年度までの8年間を見据えた基本方針を示す、新たな「足立区基本計画」(以下「基本計画」という。)を策定しました。

第2章 計画の期間

基本計画の計画期間は、令和7年度から区制100周年を迎える令和14年度までの8年間とします。計画の4年目にあたる令和10年度には中間検証を行い、必要に応じて施策体系等の見直しを行います。



第3章 足立区の基本構想

区では、平成28年10月に、30年後を見据えた区民と行政の共通の目標となる基本構想を策定し、目標とする将来像として「協創力でつくる 活力にあふれ 進化し続ける ひと・まち 足立」を掲げました。

策定にあたっては、公募区民委員や学識経験者などからなる足立区基本構想審議会を設置するとともに、これまで区政に関わる機会が少なかった世代も含めた幅広い方々による座談会を実施し、区の現状や課題、30年後の将来像について語り合っていただきました。

座談会で得られた様々なご意見・ご提案は、基本構想を検討するための基礎資料として活用し、足立区基本構想審議会からの答申を受けて、基本構想を策定しました。

「協創とは」

時代の変化から生じる課題を克服するとともに、新たなまちの魅力を創出していくためには、まず、子どもから高齢者、障がいのある人等、多様な個が夢や希望に向かってチャレンジし、社会と関わる中で、自ら誇りや生きがいを感じられることが重要です。その上で、互いの個性や価値観を認め合い、ゆるやかにつながり支えあえば、より一層力を発揮することができます。この仕組みを「協創」と呼び、持続可能なまちを築き上げる根本と位置付けます。

「協創力とは」

区民・地域・事業者・団体・行政等、それぞれの想いや力が重なり合い、互いの役割を果たすことで生まれる地域課題を解決していく「力」、共にまちや魅力を創り出していく「力」、これがすなわち「協創力」です。

「協創力」は、未来に踏み出す一歩となるとともに、区を取り巻く社会状況の変化に柔軟に対応するために必要なエンジンとなります。

「活力」とは

持続可能な社会を支えるための力であるとともに、進化のエネルギーでもあります。

「活力」には、区民一人ひとりの活力、まちの活力、行政の活力、つながりや新しい動きから生まれる活力など、様々な形があります。「活力」は、多様な人々や団体などがゆるやかにつながることで生み出される「協創力」によって一層増大します。まちに「活力」があふれることで人やモノが自然と集積し、つながり、新しきうねりが巻き起こります。それが、まち全体の活力として区を動かし、「進化」へとつながるエネルギーとなります。

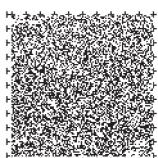
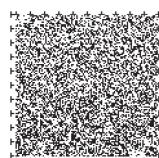
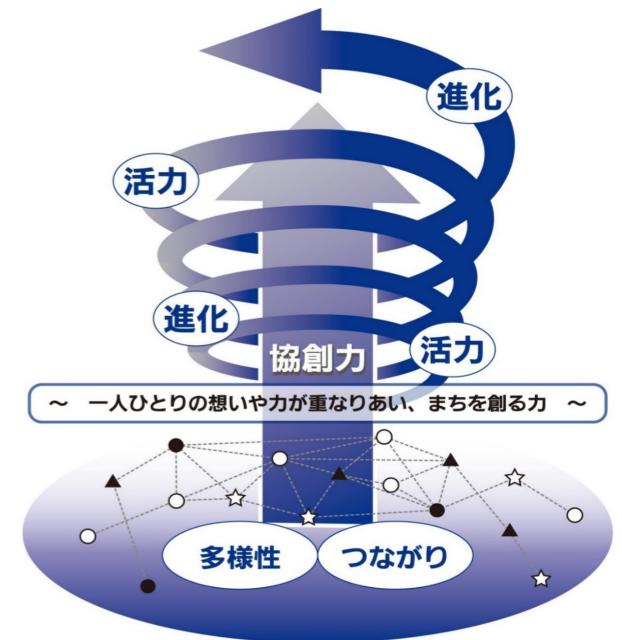
「進化」とは

今後起こり得る様々な変化に柔軟に対応し、課題を克服し、危機的状況を乗り越えていくことです。「進化」には、一人ひとりの成長、人と人とのつながりの深まり、まちの発展、行財政の改革など、様々な形があります。「活力」によって、人やまち、行政が進化し、より幅広い多様性の受容が進み、刻々と変化する状況への対応力が高まります。

「協創力」によって呼び起こされた新たな「活力」が、さらなる「進化」を生み出す、というプラスのスパイラルにより、「進化」はより深まります。

区の将来像

**協創力でつくる
活力にあふれ
進化し続ける
ひと・まち 足立**



第4章 計画の位置付け

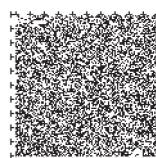
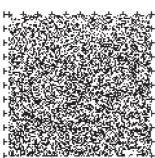
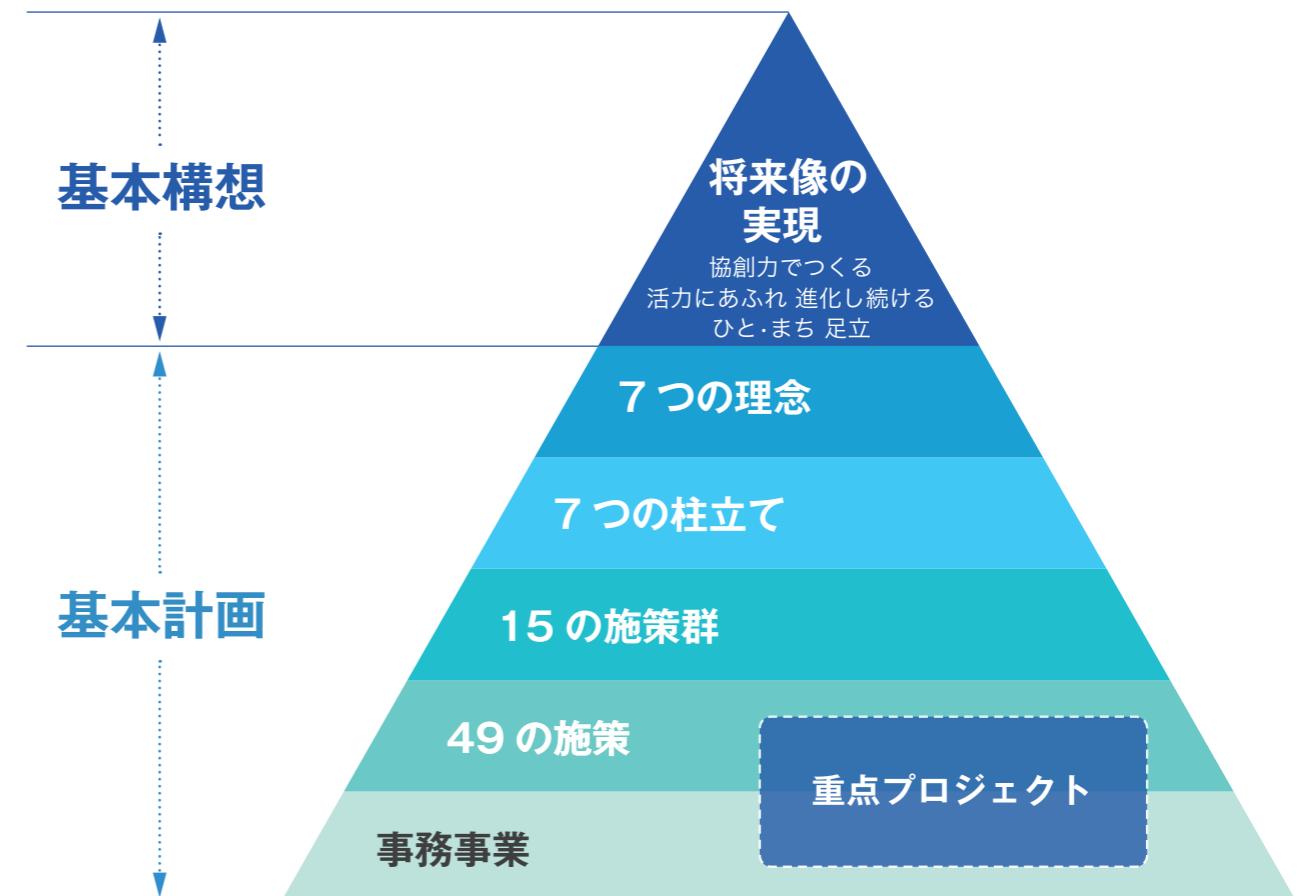
1 計画の構成

基本計画は、基本構想で示した将来像「協創力でつくる 活力にあふれ 進化し続ける ひと・まち 足立」の実現に向けて、区政全体の目標や基本的な考え方、具体的な施策を「ひと」「くらし」「まち」「行財政」の4つの視点、7つの理念、7つの柱立て、15の施策群に体系的に整理して定めています。

2 区政運営の指針となる計画

基本計画は、区の将来像の実現に向けて各施策を体系的に整理した区政運営の指針であるとともに、分野別計画の基本となるものです。分野別計画は、基本計画を補完する計画と位置付け、整合性を図りながら策定します。

基本構想と基本計画の関係



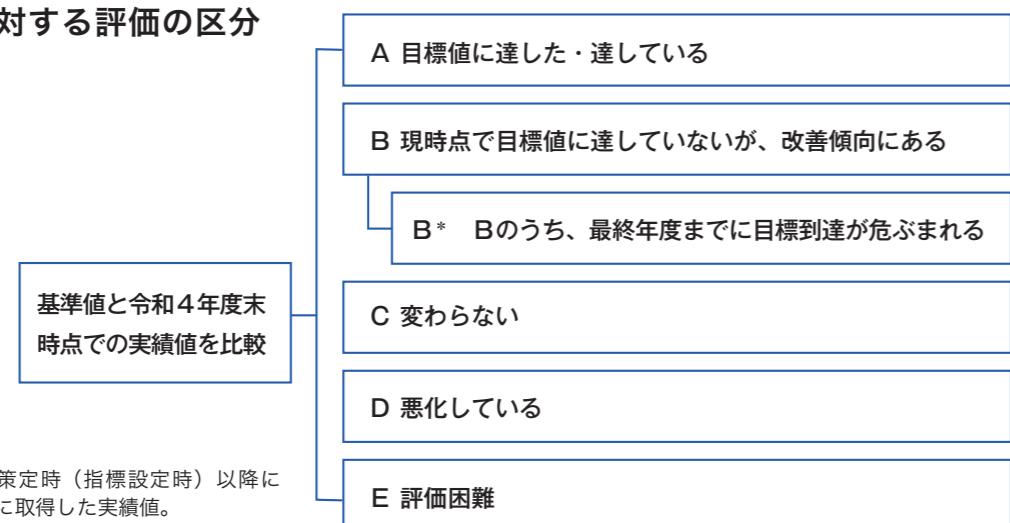
第5章 前計画の取組の評価

1 前計画の総括評価の実施

足立区基本計画審議会へ新たな基本計画に関する諮問を行うにあたって、前計画の評価を実施し、足立区基本計画総括評価書（令和4年度末時点）を作成しました。

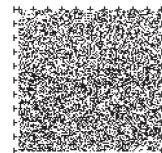
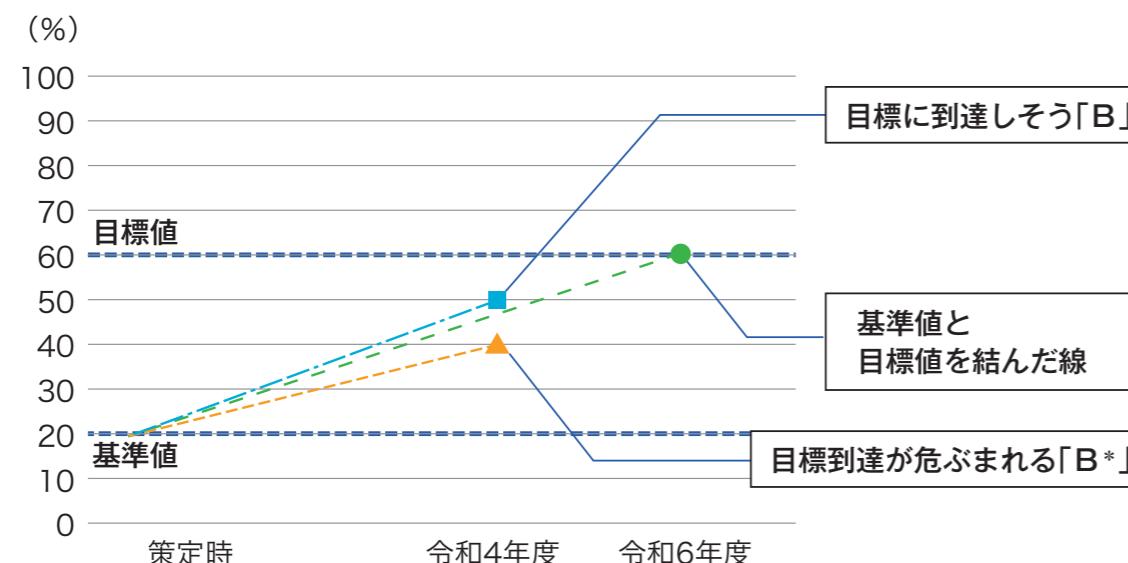
評価にあたっては、成果指標の達成度の評価、現状分析、次期計画策定に向けての課題整理を行いました。なお、成果指標の達成度については、下記区分により判定しました。

成果指標に対する評価の区分



※ 基準値 … 計画策定時（指標設定時）以降に最初に取得した実績値。

BとB*の区分



2 前計画の総括評価の結果

「区政全体に対する区民の満足度」及び各施策に定める成果指標の評価状況は下記のとおりです。成果指標の中には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けていると考えられる数値や全国的に悪化傾向となっている数値もあることから、他自治体等との比較が可能な成果指標については、分析結果等も記載しています。足立区基本計画総括評価書（令和4年度末時点）及び最新の施策評価の状況は区ホームページに掲載しています。

「区政全体に対する区民の満足度」に対する評価結果

成果指標	評価	基準値	評価時	目標値
区政全体に対する区民の満足度	A	62.1%	68.1%	67.0%

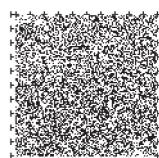
各施策に定める成果指標に対する評価結果の一覧

基準値と評価時(令和4年度末)を比較	項目数
A 目標値に達した・達している	20 (17.0%)
B 現時点で目標値に達していないが、改善傾向にある	40 (33.9%)
B* Bのうち、最終年度までに目標到達が危ぶまれる	うち25 (21.2%)
C 変わらない	36 (30.5%)
D 悪化している	21 (17.8%)
E 評価困難	1 (0.8%)
合計	118(100.0%)

※ 項目数には、「区政全体に対する区民の満足度」及び再掲となっている指標の数を含まない。

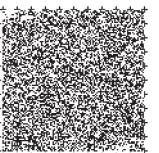
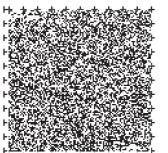
基本計画の評価の状況について

評価内容	区ホームページ (二次元コード)
足立区基本計画総括評価書(令和4年度末時点)	
最新の施策評価の状況	



第2部 **策定の背景**

第2部では、区の現状や社会情勢の変化など、
計画策定にあたり考慮すべき背景について記載しています。



第1章 足立区ってこんなところ

区の現状や特徴です。計画策定にあたって改めて「今」を見つめ直しました。

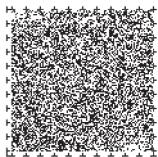
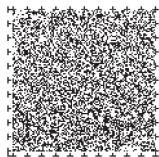
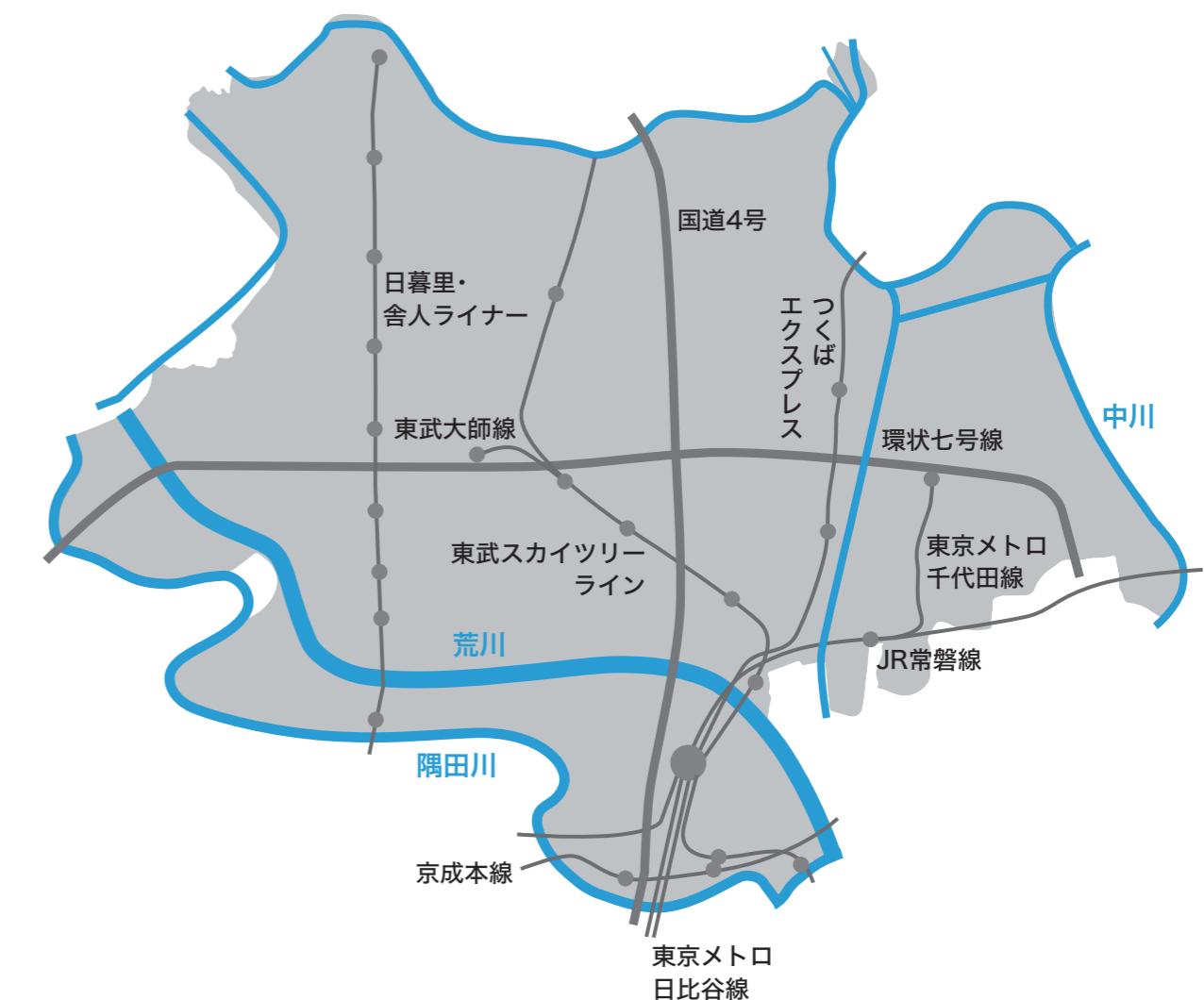
1 足立区は、東京23区の最北端に位置しています。

- ① 東は中川をはさんで葛飾区、西は隅田川をはさんで北区、荒川区、北は埼玉県川口市、草加市、八潮市、南は葛飾区、墨田区、荒川区に接しています。
- ② 区内の総面積は53.25km²で東京23区の約9%にあたり、大田区、世田谷区について第3位の広さです。この広さは、旧東京市（15区時代）の市域とほぼ同じで、面積は隣接の区、市との境界変更による変動を経て、現在に至っています。
- ③ 四方を川に囲まれた広大な区内には水辺スポットや憩いの公園が点在しており、水と緑、豊かな景観に恵まれています。

2 都心部へアクセスしやすい一方、 地域交通に関する課題が顕在化しています。

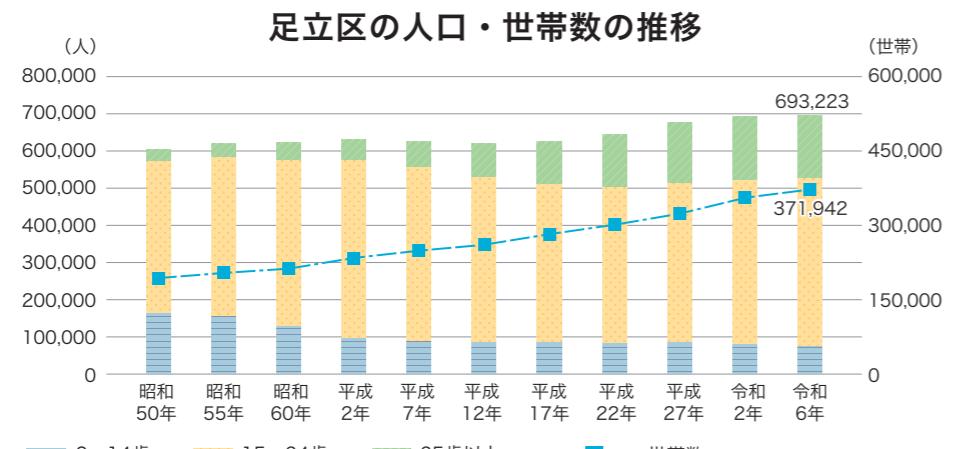
- ① JR常磐線、東武伊勢崎線（東武スカイツリーライン）・東武大師線、京成本線、東京メトロ日比谷線・千代田線、つくばエクスプレス、日暮里・舎人ライナーの8路線が区内を通り、都心部へアクセスしやすい環境が整っています。
- ② 国道4号、東京都道318号環状七号線のほか、首都高速道路中央環状線・川口線・三郷線が区内を通っています。また、都営バスや東武バス、国際興業バス、コミュニティバス「はるかぜ」等が区内を運行しています。
- ③ バス運転士不足等の影響により、バスの一部路線・一部区間の運行終了や減便等がありました。これに伴い、高齢者をはじめとした移動制約者の移動手段の確保などを求める声が区に届き、喫緊の課題となっていることから、公共交通を補完するような多様な交通手段の導入に向けた取組を積極的に進めています。

足立区 総面積 **53.25 km²**



3 単身世帯や65歳以上人口が増加しています。

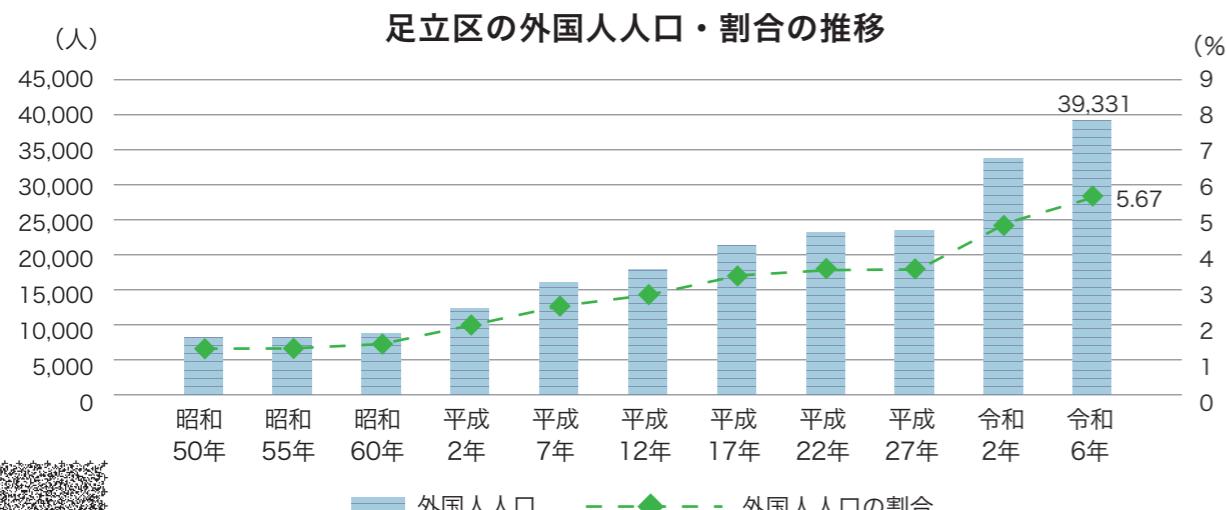
- 令和6年1月時点の総人口は約69.3万人であり、直近20年間で約1.08倍となっています。
- 令和6年1月時点の世帯数は約37.2万世帯であり、直近20年間で約1.34倍と総人口を上回るペースで増加していることから、単身世帯の増加が著しいことが分かります。
- 令和6年1月時点の65歳以上人口は約16.9万人と、直近20年間で約1.50倍に増加し、特別区で最も高齢化率（区内総人口に占める65歳以上人口の割合）が高くなっています。



※ 平成22年までの年齢別人口は日本人のみの数値となっている。（資料）足立区「数字で見る足立」により作成。

4 外国籍の住民の割合が上昇しています。

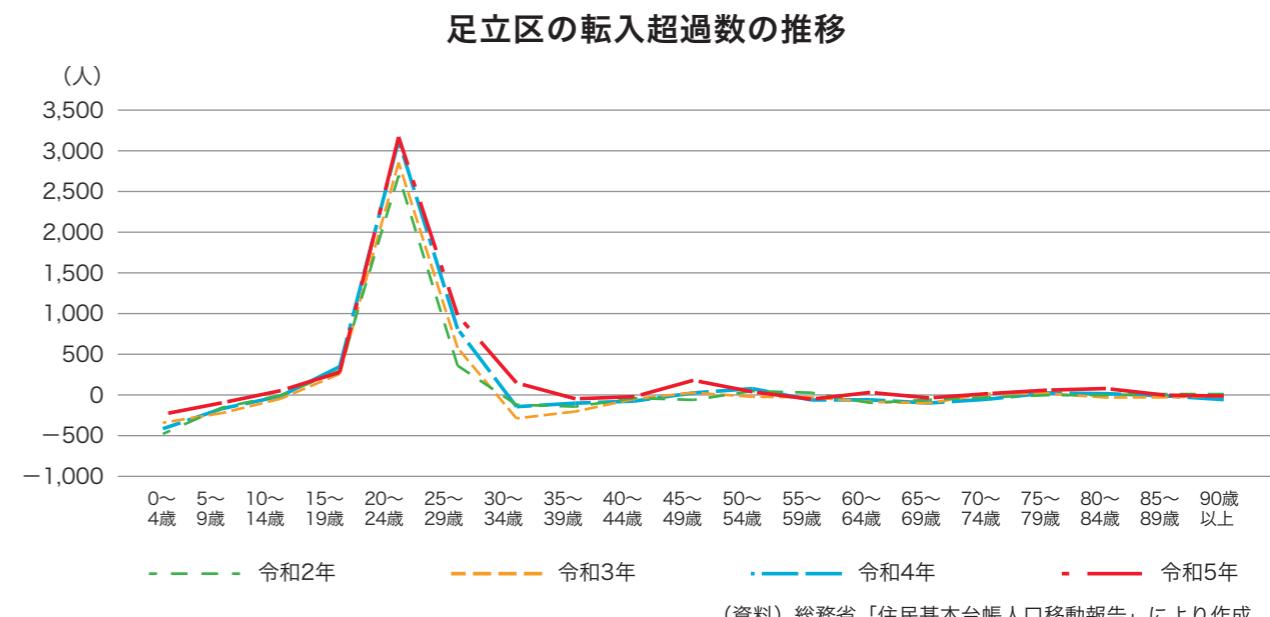
- 令和6年1月時点の外国人人口は39,331人、外国人人口の割合は5.67%と、直近20年間で人口は約1.84倍、外国人人口の割合は2.35ポイント増加しています。
- 令和6年1月時点の外国人人口を国籍別に見ると、中国、韓国、フィリピンの順に多くなっています。



（資料）足立区「数字で見る足立」により作成。

5 進学・就職を理由に、若い世代が継続的に転入しています。

- 20代の転入超過数が突出していますが、30代以降では転出超過に転じる年代もあります。また、10歳未満では転出超過となっています。
- 区の調査によると、20代は進学・就職を機に転入し、子育て世代は住宅購入を機に転出することが多いことが分かっています。

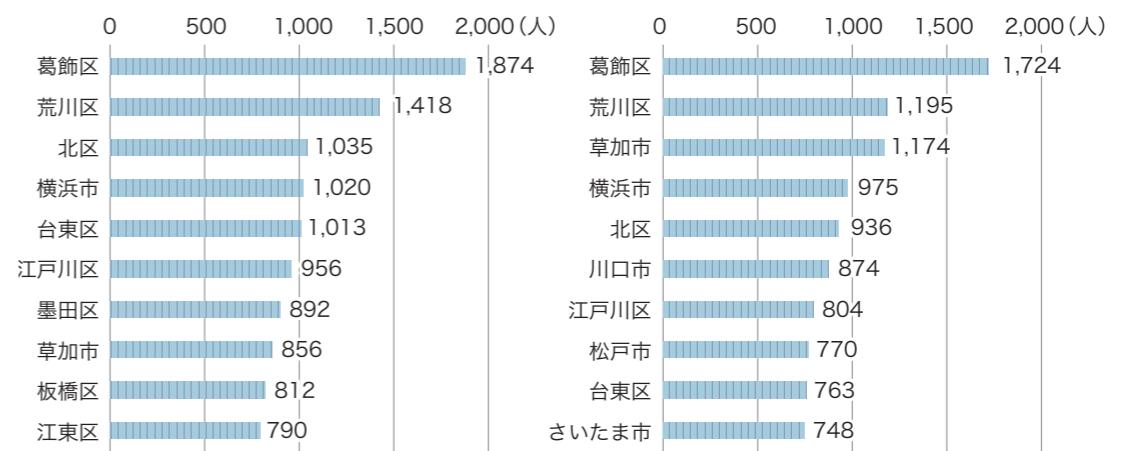


（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告」により作成。

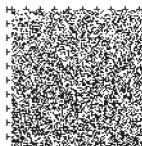
6 近隣自治体との間の転出入が多くなっています。

- 転入者数・転出者数ともに葛飾区が最も多く、次いで荒川区となっています。
- 転入元自治体上位10位のうち、東京都外の自治体は横浜市、草加市のみでしたが、転出先自治体では川口市、松戸市、さいたま市も上位10位に入っています。

転入元上位10位自治体（令和5年） 転出先上位10位自治体（令和5年）

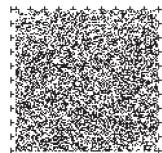
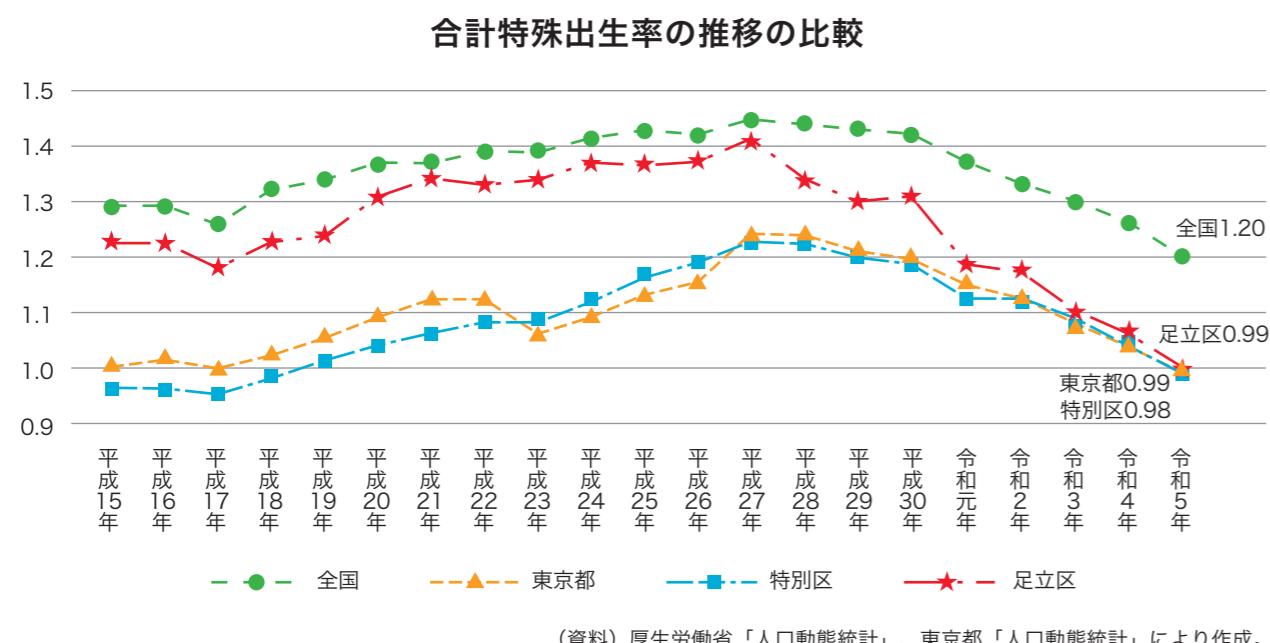
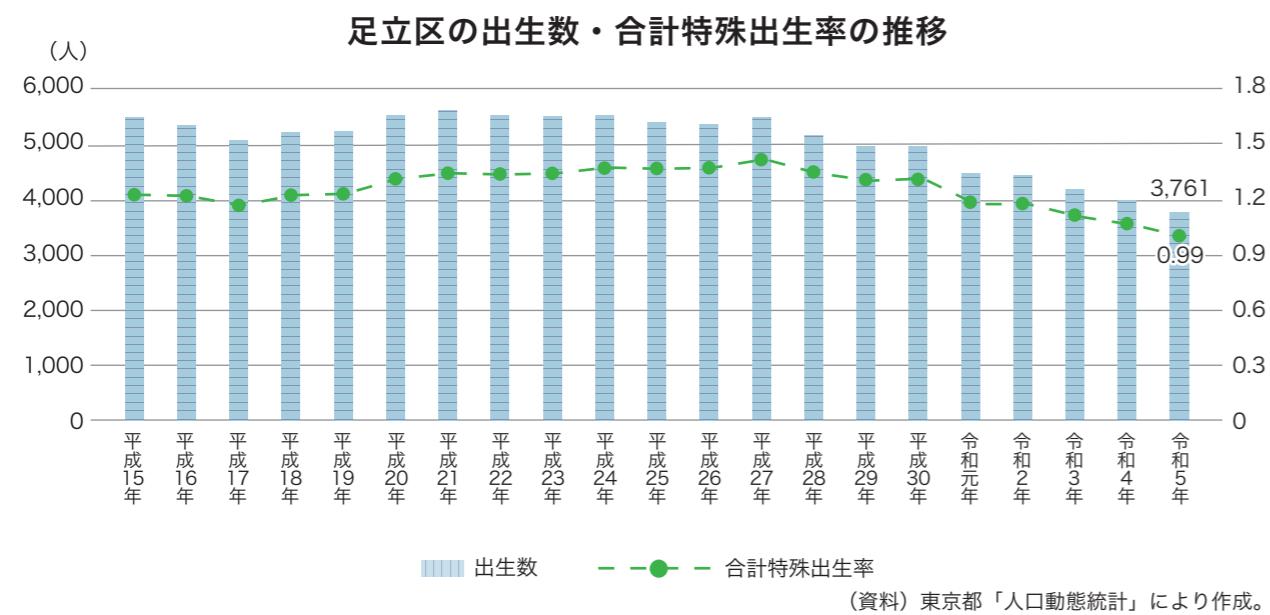


（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告」により作成。



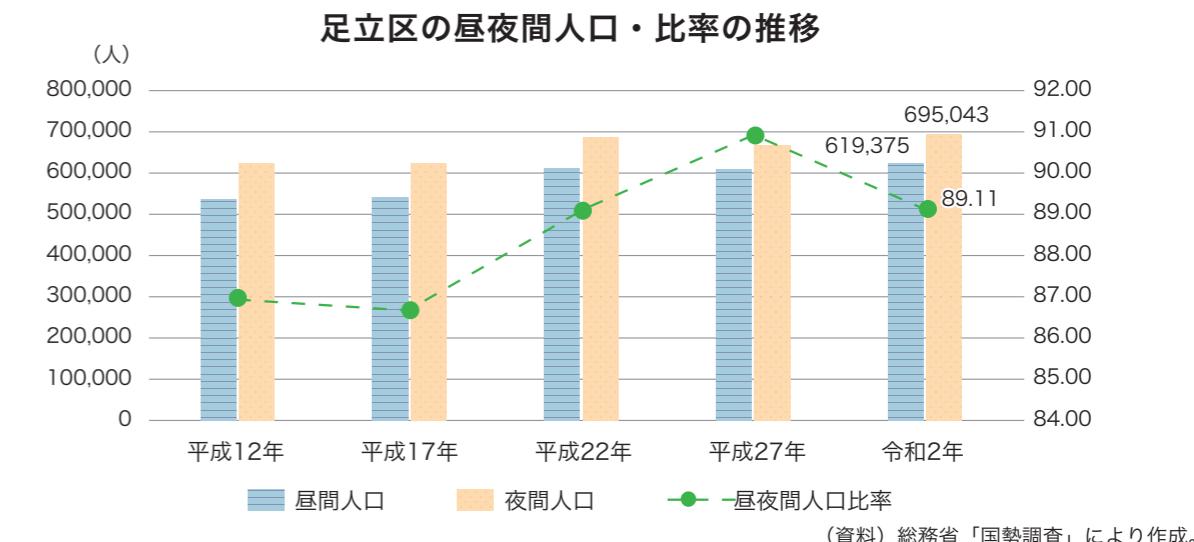
7 出生数と合計特殊出生率は減少しています。

- 平成28年までは5,000人以上の出生数を維持していたものの、平成29年には4,000人台に、令和4年には3,000人台まで減少しています。
- 合計特殊出生率は平成27年の1.41をピークに、令和5年には0.99まで減少しています。
- 足立区の合計特殊出生率は、特別区全体を0.01ポイント上回っていますが、全国より0.21ポイント低い値となっています。



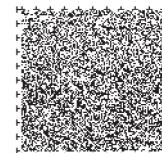
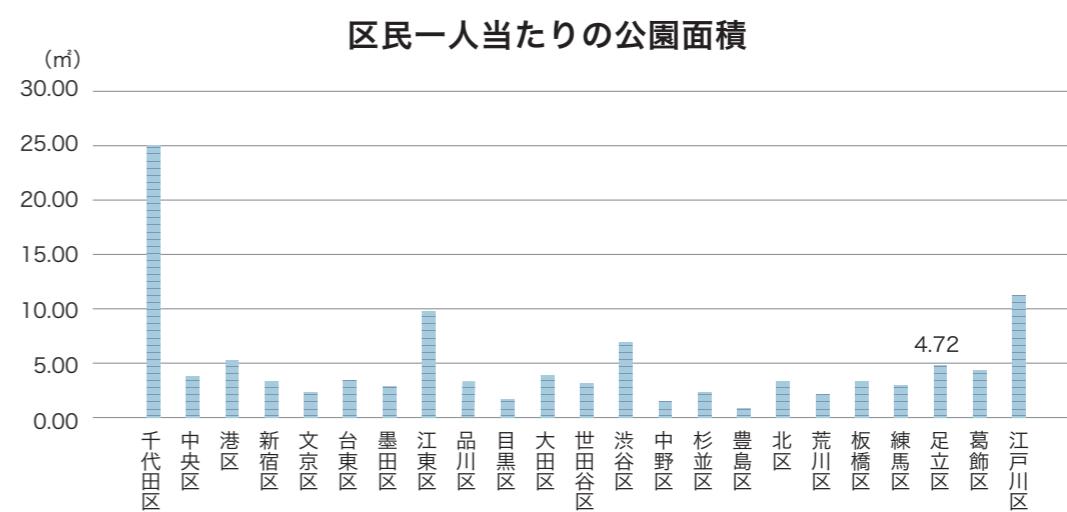
8 区外に通勤・通学する住民の割合が高くなっています。

- 平成12年には86.89だった昼夜間人口比率が令和2年には89.11と、2.22ポイント増加しています。
- 夜間人口が昼間人口を上回る傾向は継続しており、特別区平均と比較して区外に通勤・通学する割合が高くなっています。



9 身近に自然を感じることができる環境があります。

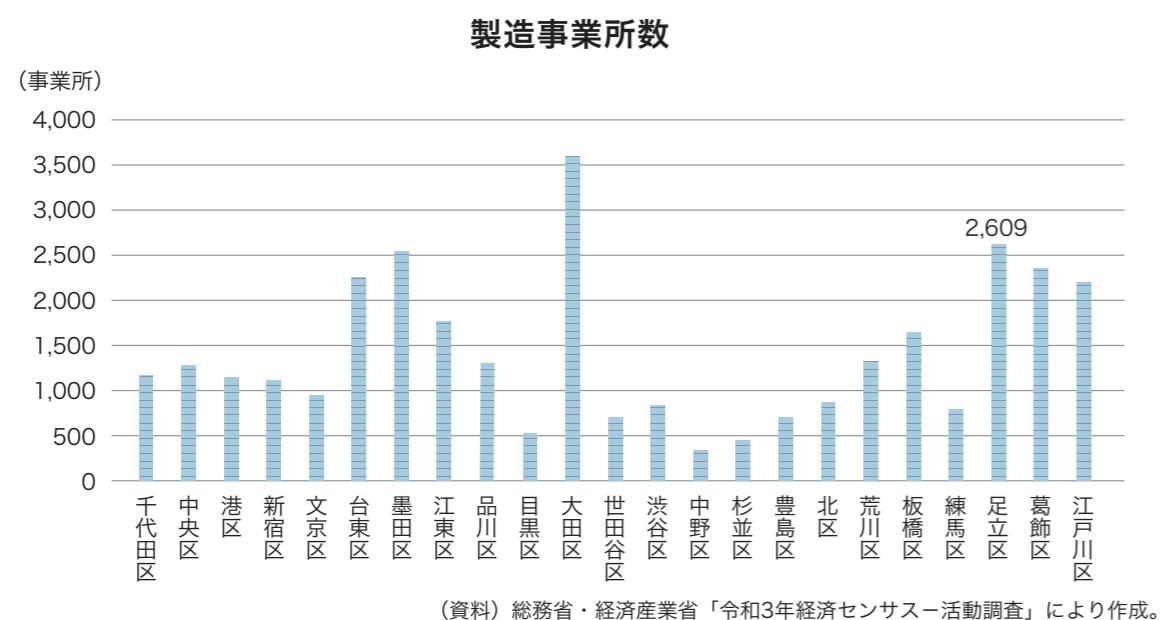
- 区立の都市公園面積は特別区で2番目に広いことに加え、広々とした荒川河川敷や特別区内の都立公園で3番目に広い舎人公園、自然とふれあうことができる都市農業公園なども存在し、水と緑に親しむことができるスポットが身近にあります。
- 区民一人当たりの公園面積では、葛西海浜公園（海上公園）がある江戸川区や皇居外苑（国民公園）がある千代田区が上位となっており、足立区は6番目となっています。



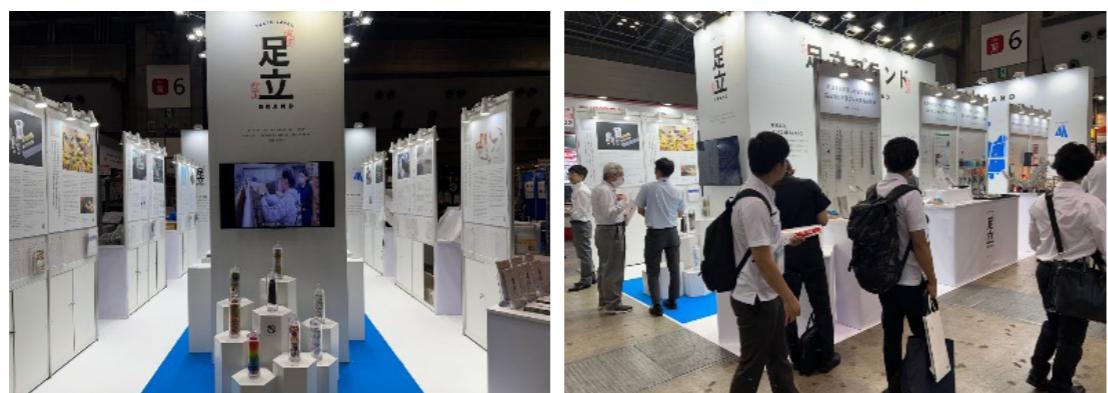
10 区内産業の優れた製品・技術を

「足立ブランド」として発信しています。

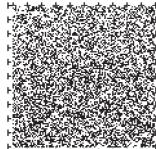
- ① 川に囲まれて水運の便が良く、江戸時代から多くの職人が移り住み、工業製品が盛んにつくられました。現在では、製造業が特別区で2番目に多く、高い技術力を持つ製造事業者や加工事業者が集積し、ものづくりの現場と製品を使用する生活者の距離が近いことが産業の特徴となっています。



- ② 「足立ブランド」は、区内産業の優れた製品・技術を認定し、その素晴らしさを全国に広く発信することで、区内産業のより一層の発展と区のイメージアップを図ることを目的に、平成19年度にスタートした事業です。令和7年1月1日現在、64企業が認定されています。



機械要素技術展（東京ビッグサイト）に出展



11 歴史の跡を伝える文化財が数多く残されています。

- 区内には、寺社や史跡など、地域の歴史を物語る貴重な文化財が点在しています。区は、昭和41年から文化財の調査活動を開始し、昭和56年には文化財保護条例を制定、翌年度から文化財の指定・登録を進め、区民共有の財産として保護と活用を進めています。令和6年4月1日現在、足立区指定・登録文化財件数は629件、区内の東京都指定文化財件数は8件となっています。
- 平成24年に迎えた区制80周年を機に「足立区文化遺産調査」が本格化し、千住地区を中心に非常に貴重な文化財の発見が続きました。調査の成果は主に令和7年度にリニューアルオープンを迎える郷土博物館などで広く公開していきます。
- 寛永2年（1625年）に誕生した千住宿は、令和7年（2025年）に開宿400年という大きな節目を迎えます。千住宿の魅力がさらに多くの人々に知られ、その価値が後世に伝えられていくための取組を進めています。

足立区文化遺産調査で発見された文化財の一つ

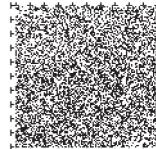


野嶋真一 四季草花図屏風

慶応元年（1865年）に橋本貞秀（歌川貞秀）が描いた千住の風景



はしもとさだひで うたがわさだひで にっこごかいどうせんじゅじゅくにっぽんむるいくすのはしごいのふうけいほんがんじぎょうしょのす 橋本貞秀 (歌川貞秀) 日光御街道千住宿日本無類楠橋杭之風景本願寺行粧之図



12 エリアデザインで

100年に一度の変化のときを迎えています。

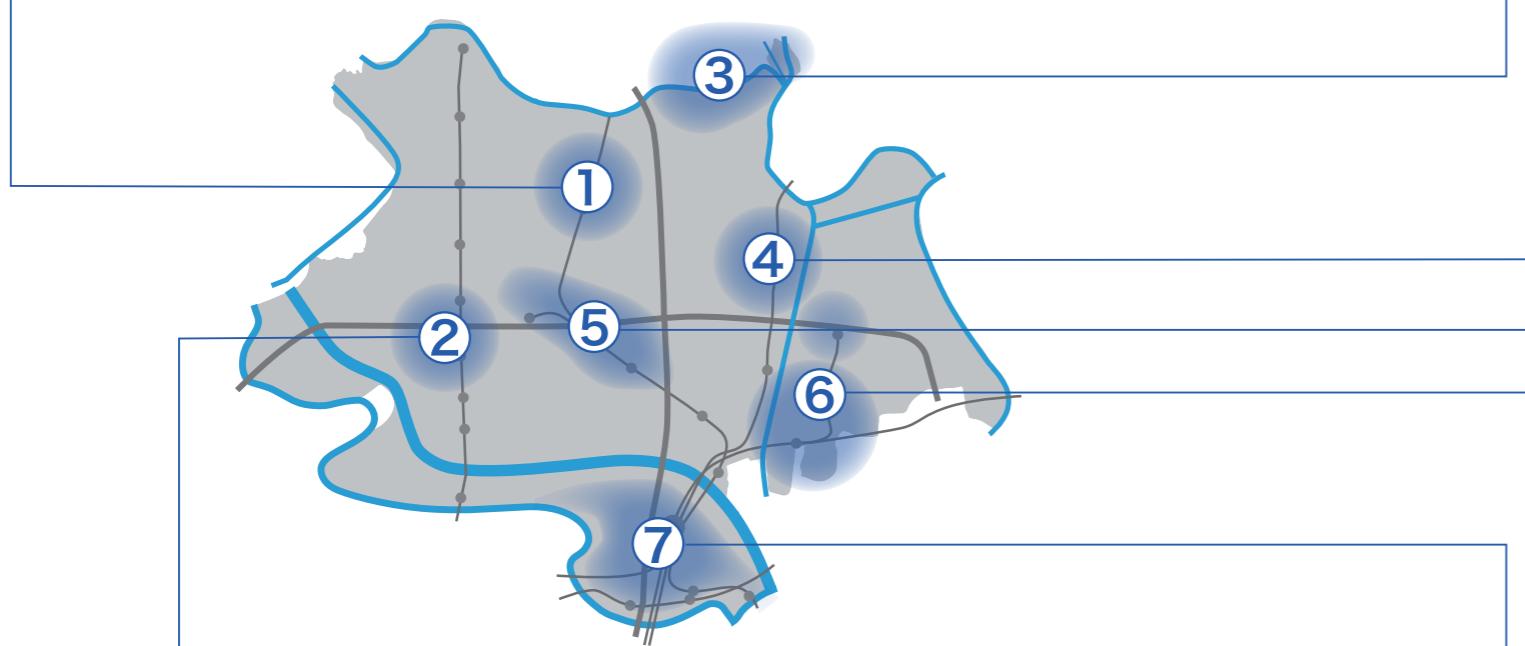
- ① 「エリアデザイン」とは、まちの特徴・魅力や求めるべき将来像などを区内外に広く発信することで、区のイメージアップや地域の活性化を図る新しいまちづくりの取組です。これまで、「綾瀬・北綾瀬」「花畠」「六町」「江北」「西新井・梅島」「竹の塚」「千住」の7エリアのうち、「千住」「竹の塚」以外の5か所で計画を策定し、まちづくりを進めています。



人が主役のまちづくり、
まずは「まちの顔づくり」として
駅前交通広場など基盤整備に向けて進行中

駅東口のUR団地のストック再生などまちづくりの進捗にあわせて、周辺区有地などを活用したにぎわい創出により、駅東西が一体となるウォーカブルなまちづくりを目指します。

①竹の塚エリア

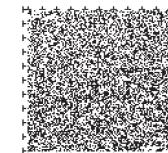


②江北エリア



住んでいるだけで自ずとこころもからだも健康になるまちへ！令和4年1月、東京女子医科大学附属足立医療センターが開院

大学病院を核としながら、統合による小・中学校跡地、上沼田東公園・創出用地などに、新たな魅力や活力を創出する施設を誘導し、区の新たな拠点となるまちづくりを展開します。



③花畠エリア



令和3年4月、文教大学 東京あだちキャンパスが開設
河川、公園などの周辺環境の再整備も進行中

昭和39年の東京オリンピック時に花畠団地が誕生、令和3年のオリンピック・パラリンピックとともに花畠エリアが生まれ変わりました。

④六町エリア



六町駅前安全安心ステーション「ろくまる」を開設
駅前区有地ににぎわい拠点を整備
隣接する駅前交通広場、公園と一体的活用を目指す

都心へのアクセスが便利なT X六町駅前にまちに活力を与える民間施設を誘導し、区内外からの来街者の増加を図り、六町エリアのさらなるまちの活性化を進めます。

⑤西新井・梅島エリア



西新井駅西口の駅前交通広場整備に着手
西新井公園周辺のまちづくりが始動

駅や周辺施設の再整備の動向を注視しつつ、梅田八丁目複合施設の整備、未整備の西新井公園計画の再構築、都市計画道路の整備、東武線をくぐる南北線構想の実現など、まちづくりの機運を高めます。

⑥綾瀬・北綾瀬エリア



綾瀬・北綾瀬の駅前交通広場を整備
旧こども家庭支援センター等跡地活用を検討

都心へのアクセス性が高い綾瀬のまちの特徴を活かし、「選ばれ続け・住み続けたい綾瀬に」の実現に向けた取組を進めます。

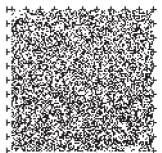
千代田線直通による北綾瀬のさらなる魅力の向上に向けたまちづくりを展開します。

⑦千住エリア



西口駅前の再開発や5つの大学誘致でまちの魅力が向上
働く女性が住みたいまちランキングも上位

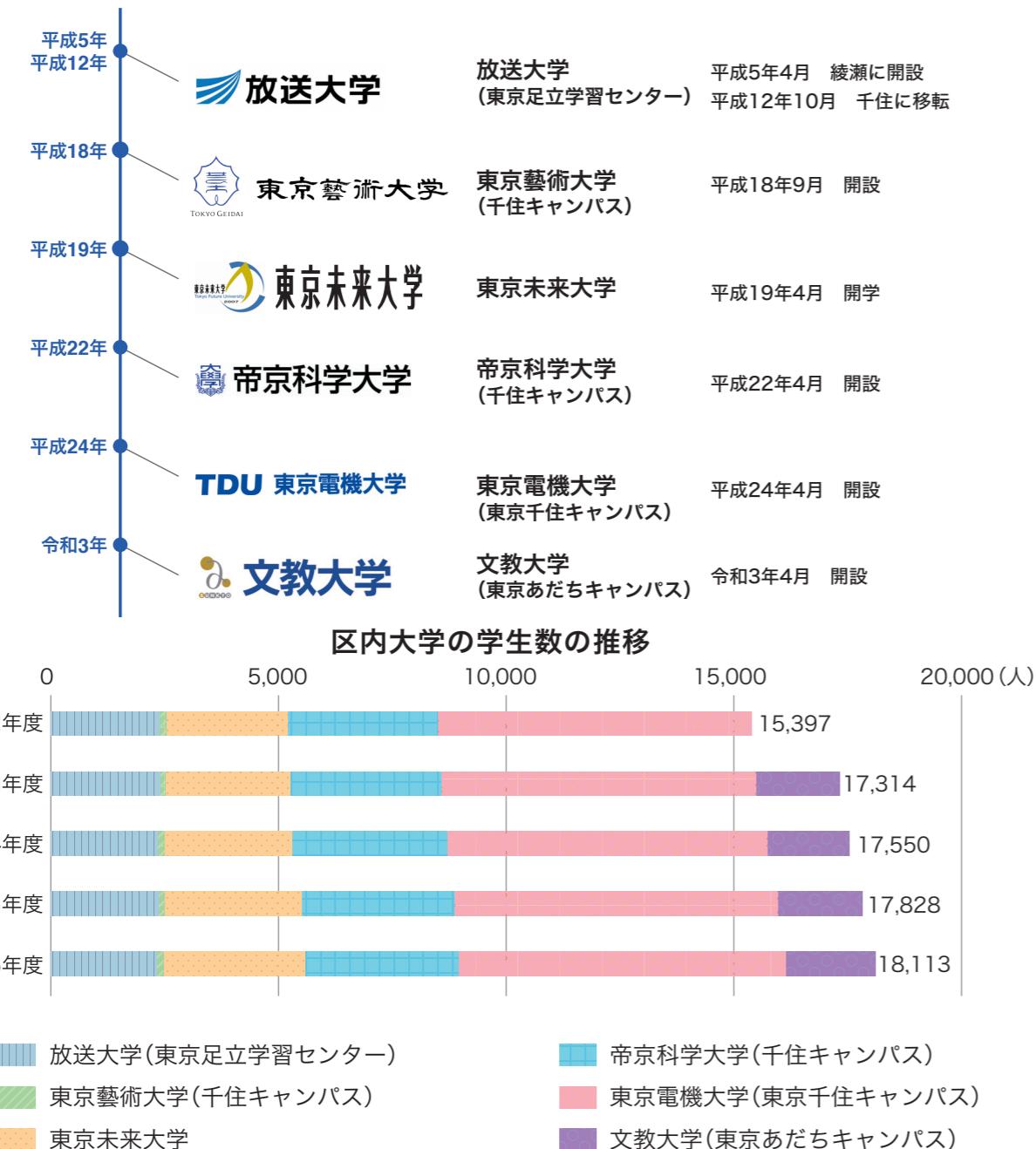
区のシンボルとして、さらなる大学連携を進めるとともに、エリア全体のにぎわいの創出や魅力的資源の有効活用により、区のイメージアップに努めます。



13 区内 6 大学の学生数は、

令和 6 年度に 18,000 人を超えました。

- ① 令和3年4月に文教大学 東京あだちキャンパスが開設し、区内の大学が6校となったことで、大学生が増加しています。
- ② 各大学は専門分野がそれぞれ異なっており、区ではその特色を生かした様々な連携を進めています。



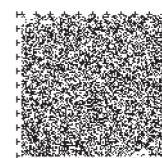
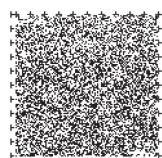
※ 東京未来大学は、通学と通信の合計。
(資料) 足立区「数字で見る足立」により作成。



文教大学



放送大学



14 SDGs 未来都市に選定されました。

① 令和4年5月20日、内閣府より「SDGs未来都市」と「自治体SDGsモデル事業」にダブル選定されました。再開発で大きく変わる好機を迎えており、綾瀬エリアをモデル地域とし、駅前広場の整備等のハード事業とともに、チャレンジ性と包摂性を引き出す三側面（経済・社会・環境）で取組を進めています。

② 地域住民の活動場所やロールモデルと出会える機会を生み出すことで、子どもたちが社会とつながり、逆境を乗り越える力を培い、安心して暮らせる持続可能なまちの実現を目指しています。



人と人の 「つながり」を大切に

気軽に訪れるができる場所やイベントの機会を積極的に設けています。人と人のつながりに満たされた、温かいまちを目指します。

「やってみたい」に チャレンジできる

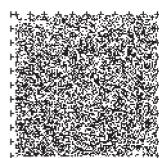
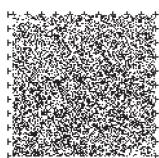
「面白そう」「やってみたい」から始まるアイデアを、みんなで実現できるまちに。アイデアを生み出す場、つなぐ場、実践する場づくりを包括的にサポートします。

プロジェクトを連動させて 「賑わい」を

それぞれの取組の可視化やアイデアを募集するプラットフォームの整備を進めます。個々の強みを連携させ、「チーム」一丸となり、まちを盛り上げていきます。



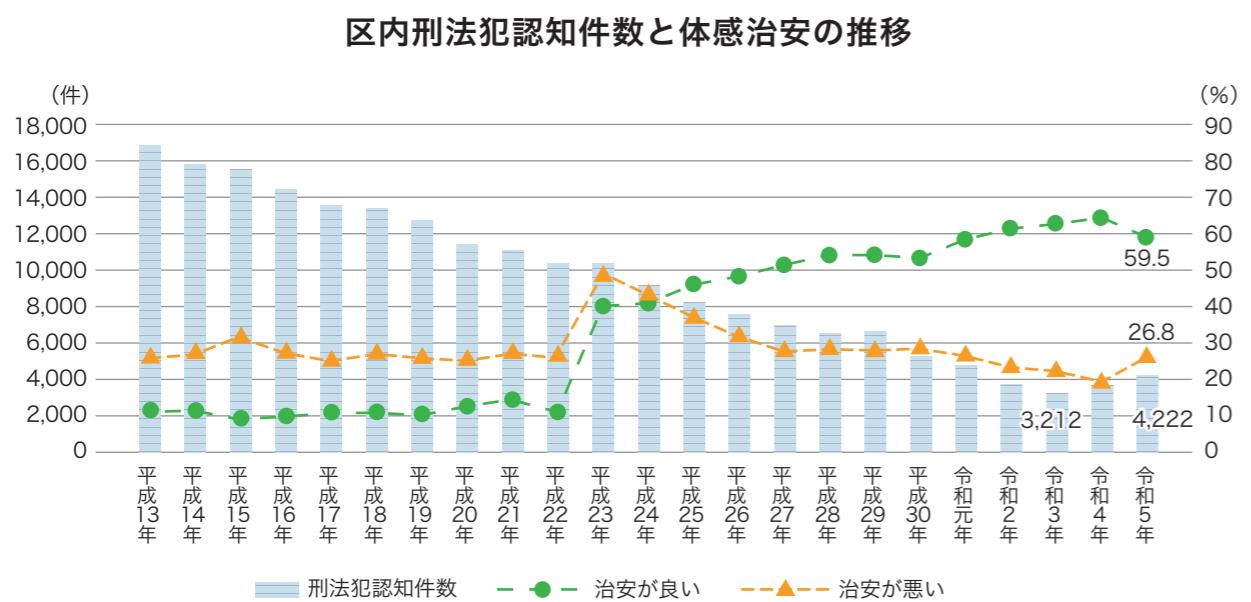
あやセンター ぐるぐる 1周年感謝祭



15 刑法犯認知件数は

最大でピーク時の約8割減となりました。

- 「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという区独自の運動「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を区内全域で展開しています。
- 平成13年には16,843件だった区内刑法犯認知件数は、令和3年にはピーク時から約8割減少し、3,212件となりました。
- 区内刑法犯認知件数の減少に合わせ、区民の体感治安も大きく改善しています。



※ 体感治安については、平成23年から調査方法を変更している。
 (資料) 警視庁「区市町村の町丁別、罪種別及び手口別認知件数」、足立区「区政に関する世論調査」により作成。

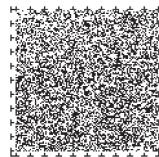


ソロクリーン活動

花いっぱいコンクール

上：「がっちりロック」大作戦
左下：青色防犯パトロール

右下：ビューティフル・ウィンドウズ運動
キャラクター：ビュー坊



16 足立区が選ばれ、愛される「ワケ」を

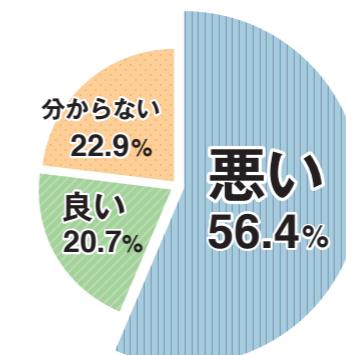
区外に発信しています。

- 平成22年度に特別区で初めてイメージアップの専管組織を立ち上げ、全庁をあげてボトルネック的課題（治安・学力・健康・貧困の連鎖）の解決、魅力の創出に取り組んできました。
- ビューティフル・ウィンドウズ運動による治安の改善をはじめとした取組の成果や大学誘致などにより、区内からの評価は高まっているものの、未だ区外からのマイナスイメージは払拭に至らず、しかも悪いイメージを持った理由は「なんとなく」や「メディア等の情報」が約7割を占めています。
- そこで、令和6年度からマイナスイメージを逆手に取った「ワケあり区、足立区。」のコピーのもと、大きく変わった足立区の「今」と、多くの人に選ばれ、愛される「ワケ」を広く区外に発信する取組を始めました。

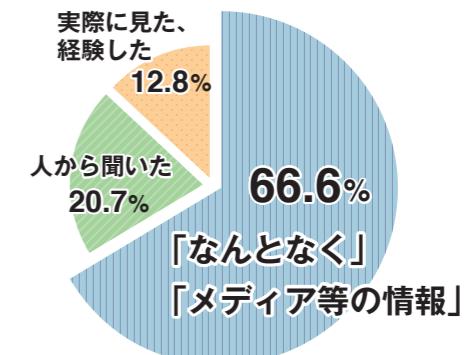


区外在住者の足立区に対するイメージ

区外在住者の
「足立区に対する総合的印象」



区外在住者が
「足立区に悪いイメージを持つ理由」



※ 表示単位未満の端数調整をしていないため、合計が100%にならない場合がある。
 (資料) 足立区「令和5年度 足立区に対するイメージ調査」により作成。

